

**キンブナ** (コイ科)

**学名** : *Carassius auratus* subsp. 2

**別名** : キンタロウブナ, マルブナなど

**大きさ** : 15 cm

**特徴** : 体は黄褐色または赤褐色で腹鰭や臀鰭は濃黄色を帯びる。体高はギンブナなどと比べ低い。霞ヶ浦のフナの仲間は形態等でキンブナ型, ギンブナ型, ゲンゴロウブナ型の3タイプに分けることがあり, キンブナはこれらの中で最も体高が低く, 鰓耙の数が少ないものに相当する(キンブナ型は20程度, ギンブナ型は40~50, ゲンゴロウブナ型は100以上)。また, キンブナは背鰭の軟条数でも他のフナと区別できる。キンブナのそれは14本以下。

**国内の分布** : 関東から東北地方の太平洋側

**県内の分布** : 霞ヶ浦水系, 牛久沼など

**県内での生態** : 河川の下流域や湿地帯でギンブナと同時に漁獲されることが多い。霞ヶ浦周辺の水路でも比較的良好にみられる。産卵期は4月から6月にかけて。ユスリカ幼虫など水生動物を好むが, 付着藻類なども食べる雑食性である。

**備考** : 東日本を中心に分布しており, フナ属魚類の中で最も小さい。西日本では本種によく似ているが, より大きくなるオオキンブナが多くなる。環境省のレッドリストで準絶滅危惧に選定されている。

**主な文献** :

川前政幸 (1991) フナ, コイの産卵場としての水生植物帯の機能について. 茨城内水試調査研究報告, 27: 135-166.

鈴木健二・青柳 克 (1998) 霞ヶ浦のフナの形態学的研究-I 「霞ヶ浦のフナの形態学的特徴について」. 茨城内水試調査研究報告, 34: 22-28.

荒山和則・富永 敦 (2009) 霞ヶ浦の湖岸と周辺の堤脚水路におけるフナ仔稚魚の出現. 茨城内水試研究報告, 42: 1-7.